

産学官連携を通した 三重大学の地域社会への貢献

一 文部科学省「自立化促進プログラム(機能強化支援型)」を活用した取り組み 一

三重大学では、産学官連携を社会貢献活動の柱として基本目標に据え、積極的に推進してきました。これまでも地域の行政機関や企業との連携を重要視し、特に地域の中小企業との共同研究数は全国でもトップクラスの実績があります。

このような取り組みをさらに推進し、結果を出すための取り組みの一つとして、「イノベーションシステム整備事業 大学等産学官連携自立化促進プログラム(機能強化支援型): 特色ある優れた産学官連携活動の推進」を推進しています。この事業は、平成20年度より推進していました「産学官連携戦略展開事業: 特色ある優れた産学官連携活動の推進」が平成22年度の文部科学省の事業再編にて見直しされたものです。

1 社会貢献を担う三重大学の産学官連携体制

三重大学では、大学の第三の使命である「研究成果の社会還元」を実現する組織の構築・改組を平成16年の法人化後から進めてきており、企業・自治体との社会連携活動を担当する「創造開発研究センター(平成21年4月から社会連携研究センターに改名)」、知財管理を一元的に行う「知的財産統括室」、大学発ベンチャー企業の創出を支援する「キャンパス・インキュベータ」を平成16年4月に開設しました。

これを契機として、産学官連携活動を推進する様々な体制整備を進めてきました。また、三重大学の総合力を駆使して取り組む課題に対する横断的な組織として、目的に応じた「三重大学リサーチセンター」を平成20年度からスタートさせています。平成21年4月には、「地域産業の振興で活躍する中核人材の育成」という新しい考えに基づく大学院「地域イノベーション学研究科」を開設しました。さらに、地域産業界との連携強化の推進を目的として、平成23年4月に地域シンクタンクとして「三重大学地域戦略センター」を設立しました。

このように三重大学は、「地域産業界を牽引する高度人材の育成」と「地域企業との共同研究による新技術・製品の開発」の推進によって地域産業の発展に寄与するための組織と体制の充実とその革新に努めています。

三重大学の産学官連携活動では、本学が築いてきた産学官連携のための組織と体制を最大限に活用する「地域振興プロデューサ」が中核となって地域課題を解決する産学官協働プロジェクトを企画・遂行することで地域活性化を図る仕組み: 産学官連携の三重モデル」を特徴として推進しています。

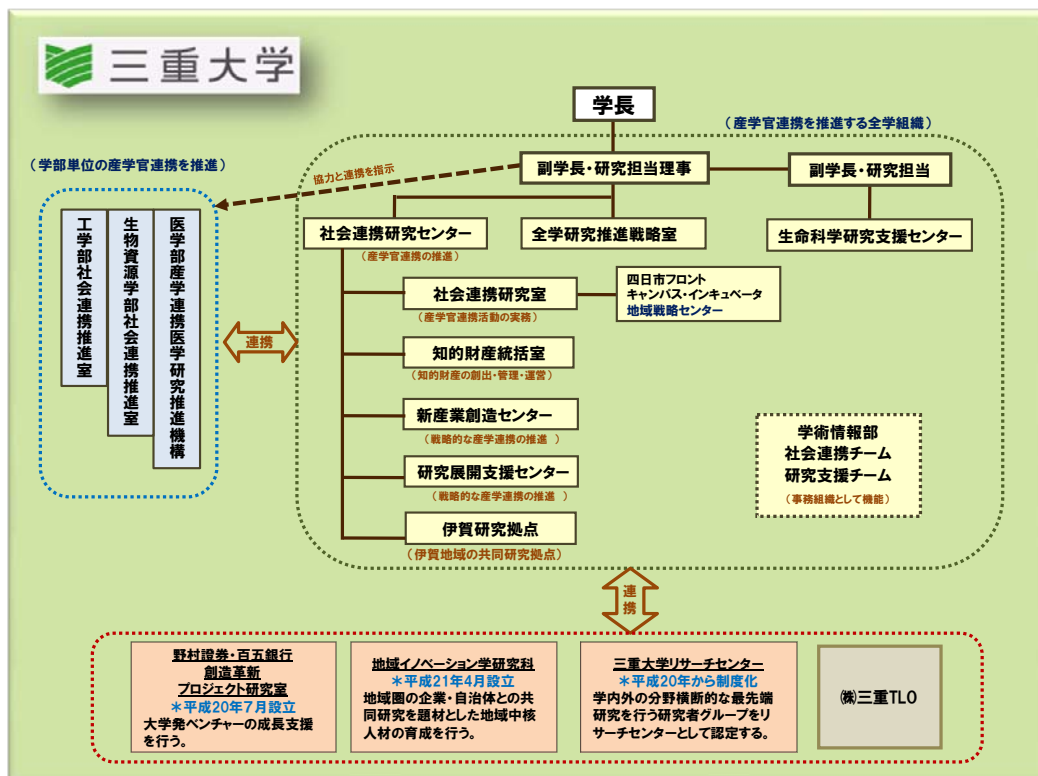


図1 三重大学の産官学連携を推進するための組織全体像

2. 産学官連携を通じた社会貢献を実現するための戦略

三重大学では、文部科学省から委託を受けた「イノベーションシステム整備事業 大学等産学官連携自立化促進プログラム(機能強化支援型):特色ある優れた産学官連携活動の推進」を推進しております。この事業は、平成20年度に採択・委託された「産学官連携戦略展開事業(5年間の事業)」が見直し再編されたものです。つまり、本事業の内容と計画はこの戦略展開事業のそれらと基本的に同じです。

本イノベーションシステム事業では、これまでに三重大学が整備してきた産学官連携体制を基に地域の行政機関、産業界と連携して進めています。つまり、地域社会の活性化を実現するための具体的な「三重地域活性化プロジェクト」を設定し、将来のプロデューサ候補を参加させるOJT (On the Job Training) 教育を実施しながら、プロジェクトの推進と育成を同時実行するスキームで推進しています。

戦略展開事業として推進してきました平成20～21年度では、「健康・福祉産業活性化プロジェクト」、「農水産業活性化プロジェクト」、「森林・里山活性化プロジェクト」の三大プロジェクトを「地域振興プロデューサ」を中核として地域の特色に立脚した取り組みとして推進してきました。平成22年度以降の「自立化促進プログラム」への移行に伴い、これらのプロジェクトの推進スキームを見直して、プロジェクトの再編と「地域イノベーション学研究科」および他の関連プロジェクトと有機

的な連携・協同を行うことにより、再編した「三重地域活性化プロジェクト」を遂行します。

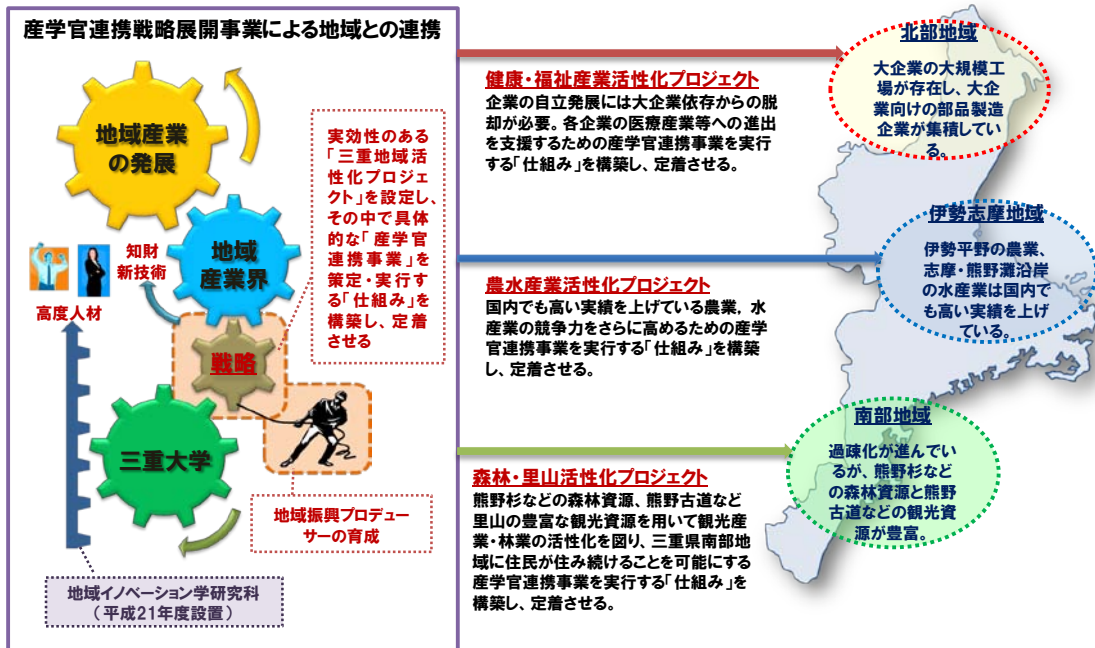


図2 戦略展開事業推進時(平成20～21年)具体的な取り組みスキーム

三重地域活性化プロジェクトの具体的な活動では、平成21年4月に新設された「地域イノベーション学研究科」と連携した取り組みを推進しています(図3)。本事業の地域活性化を推進する地域振興プロデューサーは、「地域イノベーション学研究科」のPM教員と連携することで、同研究科における大学院生及び地域企業への「知的財産を活用した研究開発に関する実践的教育」を支援します(知的財産の創造、保護、活用の体験教育を推進する取組)。同様に、地域イノベーション学研究科のPM教員は、地域活性化プロジェクトのリーダーもしくはメンバーとして活動しています(産学連携従事者の増員や能力の向上を図る取組)。

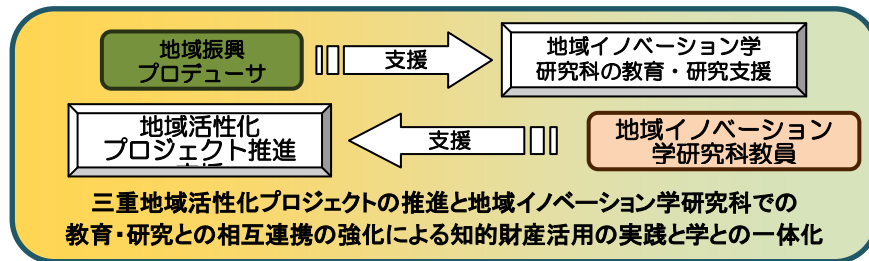


図3 地域イノベーション学研究科との連携による事業推進体制の強化

①三重地域活性化プロジェクトの企画と推進マネジメント

平成22年度のプロジェクト再編では、常時9テーマ程度の「三重地域活性化プロジェ

クト」が安定的に実施できる体制を整え、推進してきました。平成23年度以降は、これらプロジェクトがスムーズに推進される体制とプロジェクトの運用手法のリファインを主に進めます。継続・推進しているプロジェクトは、継続・見直し・完了すべきものなどの取捨選択を行い、また新規プロジェクトの企画・立案・実行等もあわせて推進します。(表1)

こうした一連の活動の中で、プロジェクト推進スキームと推進手法の洗練を行い、スムーズに産官学連携プロジェクトが実行できる仕組みを構築します。同時に、地域イノベーション学研究科と連携して、プロデューサ候補者の育成をこの活動の中で進めます。

地域振興プロデューサが「地域イノベーション学研究科」のPM教員と共同して、前記した9プロジェクトを具体的な実例として候補者に担当させて「次世代の地域振興プロデューサ」を育成していきます。

表 平成23年度における三重地域活性化プロジェクトの一例

事業名	担当プロデューサ	プロデューサ候補者	連携機関	計画している活動内容
(1) 鈴鹿カーボンバレー	梅村時博	八神寿徳	鈴鹿市・三重県・AMIC	共同研究推進・企業ニーズ調査・異業種交流の促進
(2) ものづくり企業新分野進出支援	梅村時博	八神寿徳	三重県・津市・鈴鹿市・伊勢市	企業ニーズ調査・技術移転促進・共同研究推進・競争的研究資金の獲得
(3) 新社会システム実証プロジェクト	梅村時博	八神寿徳	三重県・津市・中部電力	先行事例調査・競争的研究資金の獲得・社会ニーズ調査・共同研究推進
(4) 糖尿病に対するクリティカルパス推進	松井 純	加藤貴也	三重県・紀南健康長寿推進協議会・紀南病院・紀南医師会	啓蒙パンフレットの作成・作業部会の立ち上げ・啓蒙活動
(5) ウェストメジャーリーグの他地域での実証	松井 純	加藤貴也	三重県・伊勢市・民間スポーツクラブ	実証研究推進・企業との連携推進
(6) 熊野古道リラクゼーションツアー開発	松井 純	加藤貴也	尾鷲市・三重県・和歌山県	実証研究推進(入浴施設・郷土料理)
(7) 三重県南部地域柑橘類栽培による産業振興	西村訓弘	狩野幹人	三重県・南伊勢町・JA	地域ニーズ調査・競争的研究資金獲得・評価試験の推進
(8) 柚子由来機能性化粧品開発推進	西村訓弘	狩野幹人	三重県・薬事工業会・三重県工業研究所	共同研究推進・企業研究者へのOJT教育
(9) 統合医療による地域活性化推進	西村訓弘	狩野幹人	三重県・鈴鹿医療科学大学・医食同源みえ	人材育成・地域への啓蒙・大学間連携推進
(10) 次世代自動車、ソーラシステム用電子部品革新プロジェクト	梅村時博	八神寿徳	三重県・長野県・ニチコン	大学発のシーズ技術を次世代自動車、ソーラシステムへ適用・実用化
(11) 「伊勢志摩里海学会」事業	松井 純	加藤貴也	志摩市・水産高校・水産研究所・伊勢市・鳥羽水族館ほか	自然体験施設の産官学有効利用教育活動プロジェクト
(12) みえ“食発・地域イノベーション”創造拠点を活用する地域活性化	西村訓弘	狩野幹人	三重県・医食同源みえ・鈴鹿医療科学大学	民間企業ネットワーク作りによる食発の研究開発推進プロジェクト活動の推進

さらに、三重大学が社会連携研究センター内に新設しました「三重大学地域戦略センター」、地域イノベーション学研究科を中心とする「地域イノベーション・コアラボ」、三重県と連携して設立した「みえ食発・地域イノベーション創造拠点」等との連携・協働により、平成23年度以降の地域活性化プロジェクトをより効果的に進めています。

②産学官連携セミナーの実施

地域活性化を遂行するプロジェクトとして「三重地域活性化プロジェクト」を複数立ち上げて同時に遂行することを主軸としています。そこで、各プロジェクトの遂行を円滑かつ効果的に実施するために、地域振興プロデューサ、同プロデューサ候補者が、各プロジェクトに参画する産学官のメンバーを集めて意見交換を行う小規模のセミナー(医食同源

フォーラム、食発イノベーション研究会等）を開催します。これにより、各プロジェクトにおける目的の共有化と進捗の把握、方向性の最適化がはかられます。また、三重地域活性化プロジェクトの中で、産・学・官の関係者に広く広報すべき内容と成果等については、伊賀研究拠点セミナー、三重大学先端研究シンポジウム等のシンポジウム形式の公開セミナー等にて紹介します。

以上のような、セミナーとシンポジウム（これらを総称して産学官連携セミナーと呼ぶ）を適宜、開催することで、「プロジェクト参加者の目的と情報の共有化」、「プロデューサおよびその候補者の育成」、「産学官連携の三重モデルの内容と成果の啓蒙」を図り、個々のプロジェクトの成果が着実に地域の活性化に結びつき、それぞれを連鎖しながら波及させる産学官連携活動の実現を目指しています。

③ さらなる組織的な連携強化

三重大学の社会貢献を確固たるものにするために、社会連携研究センターの組織改革と充実、人材の確保、地域イノベーション学研究科の充実と、段階的に組織的な体制構築が平成22年度までにほぼ確立できました。

今後は、「知の循環システムの実現」、「大学とTLOによる産学連携強化」、さらに「地域社会への貢献」を推進するために、「地域イノベーション・コアラボ」、新たに設置された「三重大学地域戦略センター」、「みえ食発・地域イノベーション創造拠点」、三重大学地域イノベーション学研究科、(株)三重TLOとが一体になり、総合的なプロジェクトの企画・運営を行います。このような基盤の充実とともに、地域が求める人材育成、新規プロジェクトの創造・推進ができる新たな体制を構築します。

これにより、本事業完了後の産学官連携のあるべき姿である「産学官連携三重モデル」を実現していきます。